

平成13年度

コア科目 総合コース



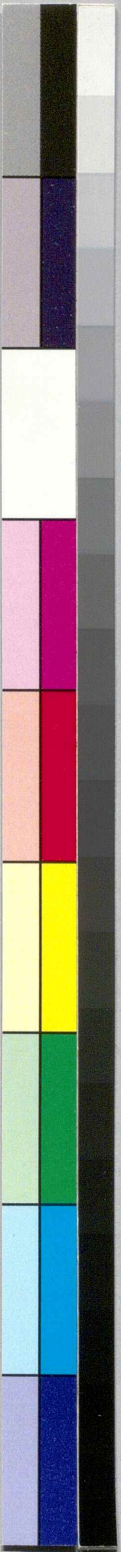
「新しい100年」(01前-I)

「文化のなかの<sup>からだ</sup>身体」(01前-II)

お茶の水女子大学



「新しい100年」(01前-1)





総合コース図書一覧		石井美智子著	1994	4641037949	女性文化 324/175	購入	
平成13年度 前期 I 新しい100年							
伊藤三重子 古代中国人のライフサイクル		(ヴァージニア・ウルフ著) 近藤いね子訳	1976	4622006634	図 328/w87/3	購入	
現代語訳論語(岩波現代文庫; 学術; 17)	宮崎市定著		2000	4006000170		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	特に指定なし。一般書架に並べる。
礼記(全釈漢文大系 / 宇野精一, 平岡武夫編; 第12-14巻)	市原亨吉, 今井清, 鈴木隆一著		1976-1979		図 082/Z3s/12-14	<input type="checkbox"/> 購入	
千支の漢字学(あじあブックス; 007)	水上静夫著		1998	4469231479		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
荒井由紀夫 「シンデレラ」にみるヨーロッパ的時間世界			2000	400026432X	図 357.5T110/T45	購入	
時間と習俗の社会史: 生きられたフランス近代へ	福井憲彦著		1986	4788502496	図 235/F76	<input type="checkbox"/> 購入	
思想 663号所収「教会の時間と商人の時間」	ジャック・コフ著, 新倉俊一訳		1979年6月		図 386-860<1923-1996>	<input type="checkbox"/> 購入	雑誌
グリム童話集: 完訳 1-5 (岩波文庫)	グリム [著]; 金田鬼一訳		1979	4003241312等	図 943M40-310/G86/1~5	<input type="checkbox"/> 購入	
眠れる森の美女: 完訳ペロウ昔話集(講談社文庫)	シャルル・ペロウ [著]; 巖谷国士訳		1992	4061850970		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
忘れられた日本人(岩波文庫; 青(33)-164-1)	宮本常一著<		1984	400331641X	図 382M40-310/Mi77	<input type="checkbox"/> 購入	
耳塚寛明 学校教育と学歴社会の近未来学			1996	4121013115		購入	
変わる若者と職業世界	矢島正見, 耳塚寛明編		2001(近刊)			<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
日本のメリトクラシー: 構造と心性	竹内洋著		1995	4130511068	図 371.3/Ta67	<input type="checkbox"/> 購入	
小谷眞男 胎児の社会科学—法学的アプローチ—			1985			購入	
優生学と人間社会: 生命科学の世紀はどこへ向かうのか(講談社現代新書; 1511)	米本昌平 [ほか] 著		2000	4061495119		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
子ども一〇〇年のエポック: 「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで	本田和子著		2000	4577811456		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
いのちの法律学: 生命の誕生から死まで	大谷實著		1999	494640662X		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
21世紀につなぐ生命と法と倫理: 生命の始期をめぐる諸問題	中谷瑾子著		1999	464102748X	生活社会 490/N43	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
生命誕生をめぐるバイオエシックス: 生命倫理と法	金城清子著		1998	4535511616	ジェンダ 495/Ki44	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
胎児へのまなざし: 生命イデオロギーを読み解く(パンセ選書; 1)	バーバラ・ドゥーデン著 ; 田村雲供訳		1993	4900590363	ジェンダ 495/D94	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	





人工生殖の法律学：生殖医療の発達と家族法	石井美智子著	1994	4641037949	女性文化 324/175	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
竹村和子 文学とジェンダー/セクシュアリティ		1999	4762228502		<input type="checkbox"/> 購入	
ダロウェイ夫人(ヴァージニア・ウルフ著作集 / 福原麟太郎監修; 黒沢 英信集)	[ヴァージニア・ウルフ著]; 近藤いね子訳	1976	4622006634	図 938/w87/3	<input type="checkbox"/> 購入	
A room of one's own (Bloomsbury classics)	Virginia Woolf	1993	0747515751		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
自分だけの部屋	ヴァージニア・ウルフ[著]; 川本静子訳	1988	4622010895		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
Mr. Dalloway : a novella	Robin Lippincott	1999	1889330280	図 780.19/J76	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
フェミニズム(思考のフロンティア)	竹村和子著	2000	400026432X	図 367.8TT10/Ta67	<input type="checkbox"/> 購入	
Mrs. Dalloway (Oxford world's classics)	Virginia Woolf	1998	0192834304	女性文化 324/175	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
藤代一成 論理時間と物理時間—時間から見たサイバースペース考—						
Cyberworlds	T. L. Kunii, A. Luciani (eds.).	c1998	4431702075	図 371.4/U34	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
平成13年度 前期 II 文化のなかの身体(からだ)						
黒田淑子 日常生活に開かれた心理劇—身体があらわす人間関係—						
身ぶりとしぐさの人類学：身体がしめす社会の記憶(中公新書; 1311)	野村雅一著	1996	4121013115	図 146/11/Ku72	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
生きることと人間関係：心理劇の活用	黒田淑子著	1988	4762380105	図 146  Ku72	<input type="checkbox"/> 購入	
心理劇：対人関係の変革	松村康平著	1961	4061494352	図 146/Ma82	<input type="checkbox"/> 購入	
Psychodrama ; v. 1 —fourth edition with new introduction	J. L. Moreno	1985			<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
心理劇 = The Japanese Journal of Psychodrama 1巻1号 所収「日常生活と心理劇：実践と研究の間」	黒田淑子ほか著	1996			<input checked="" type="checkbox"/> 購入	雑誌
佐々木正人 行為の生態学						
アフォーダンス：新しい認知の理論(岩波科学ライブラリー; 12)	佐々木正人著	1994	4000065122	図 408/195/12	<input type="checkbox"/> 購入	
知性はどこに生まれるか：ダーウィンとアフォーダンス(講談社現代新書; 1335; Jeunesse)	佐々木正人著	1996	4061493353		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
知覚はおわらない：アフォーダンスへの招待	佐々木正人著	2000	4791758471		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
アフォーダンスの心理学：生態心理学への道	エドワード・S.リード著; 細田直哉訳	2000	4788507439	ジェンダ 468/R23	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	





森光康次郎 機能性食品研究の最前線—氾濫する体によい食品情報とうまく付き合うために—

何を食べたらよいのか：氾濫する情報にふりまわされないために(くらしの中の化学と生物；6)	日本農芸化学会編；杉本悦郎 [ほか] 責任編集	1999	4762229202	図 498.5/N48	<input type="checkbox"/> 購入	
精進百撰 (岩波現代文庫；文芸 25)	水上勉 [著]	2001	4006020252		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	

水村真由美 美しくなりたい身体—体脂肪と健康—

運動とからだ：解明!「運動」⇔「からだ」⇔「健康」のメカニズム (からだ読本)	水村真由美著	2000	4381103777		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
女性のライフステージからみた身体運動と健康		1995	4764415399	図 780.19/J76	<input type="checkbox"/> 購入	

徳井淑子 身体を社会化する衣服

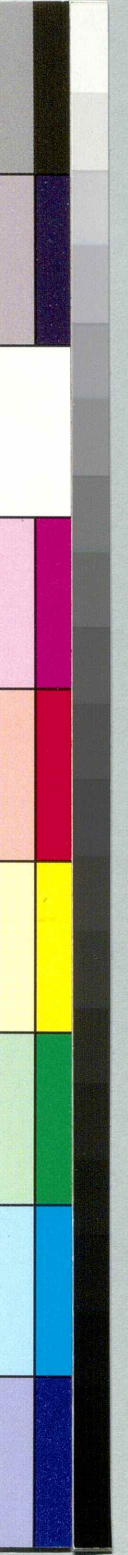
中世衣生活誌：日常風景から想像世界まで	徳井淑子編訳	2000	4326851678	生活文化 383/C67	<input checked="" type="checkbox"/> 購入	
---------------------	--------	------	------------	--------------	--	--

内田伸子 人間発達の可塑性—からだところの結びつき—

発達心理学：ことばの獲得と教育(岩波テキストボックス)	内田伸子著	1999	4000260200	図 371.4/U14	<input type="checkbox"/> 購入	
人間発達と初期環境：初期環境の貧困に基づく発達遅滞児の長期追跡研究	藤永保, 斎賀久敬, 春日喬, 内田伸子 著	1987	4641075050	図 371.4  N76	<input type="checkbox"/> 購入	改訂版未所蔵

箕浦康子 メディア・子ども・身体

メディア・リテラシー：世界の現場から(岩波新書；新赤版 680)	菅谷明子著	2000	4004306809	図 081/I11iwa/680	<input type="checkbox"/> 購入	
新・コンピュータと教育 (岩波新書；新赤版 508)	佐伯胖著	1997	400430508X	図 081/I11iwa/508	<input type="checkbox"/> 購入	
「意識」とは何だろうか：脳の来歴、知覚の錯誤 (講談社現代新書；1439)	下條信輔著	1999	4061494392		<input checked="" type="checkbox"/> 購入	





総合コード	書名	著者名	出版社	出版年	ISBN	所蔵	購入	備考
2001B101	眠れる森の美女：完訳ペロー昔話集(講談社文庫)	シャルル・ペロー[著]；巖谷国士	講談社	1992	4061850970		<input type="checkbox"/>	
2001B107	論語					083	<input type="checkbox"/>	特に指定なし
2001B107	礼記(全釈漢文大系 / 宇野精一, 平岡武夫編; 第12-14巻)	市原亨吉, 今井清, 鈴木隆一著	集英社	1976-1979		082 235 12-14	<input type="checkbox"/>	あり
2001B107	干支の漢字学(あじあブックス; 007)	水上静夫著	大修館書店	1998	4469231479		<input type="checkbox"/>	
2001B109	変わる若者と職業世界	矢島正見, 耳塚寛明編	学文社	2001(近刊)			<input type="checkbox"/>	
2001B110	いのちの法律学：生命の誕生から死まで	大谷實著	悠々社	1999	494640662X		<input type="checkbox"/>	
2001B110	子ども〇〇年のエポック：「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで	本田和子著	フレーベル館	2000	4577811456		<input type="checkbox"/>	
2001B110	優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか(講談社現代新書; 1511)	米本昌平 [ほか] 著	講談社	2000	4061495119		<input type="checkbox"/>	
2001B111	Cyberworlds	T. L. Kunii, A. Luciani (eds.).	Springer	c1998	4431702075		<input type="checkbox"/>	
2001B112	A room of one's own (Bloomsbury classics)	Virginia Woolf	Hogarth Press (Bloomsbury)	1929(1993)	(0747515751)		<input type="checkbox"/>	
2001B112	自分だけの部屋	ヴァージニア・ウルフ[著]；川本静	みすず書房	1988	4622010895		<input type="checkbox"/>	
2001B112	Mrs. Dalloway (Oxford world's classics)	Virginia Woolf	Hogarth Press (Oxford)	1925(1998)	(0192834304)		<input type="checkbox"/>	
2001B112	ダロウェイ夫人(ヴァージニア・ウルフ著作集 / 福原麟太郎監修；黒沢)	[ヴァージニア・ウルフ著]；近藤い	みすず書房	1996	4622006634(新装版)	0938/w87/43	<input type="checkbox"/>	あり
2001B112	Mr. Dalloway ; a novella	Robin Lippincott	Sarabande Books	1999	1889330280		<input type="checkbox"/>	
2001B201	運動とからだ：解明「運動」⇔「からだ」⇔「健康」のメカニズム(からだ読本)	水村真由美著	山海堂	2000	4381103777		<input type="checkbox"/>	
2001B202	Psychodrama ; v. 1	J. L. Moreno	Beacon House	1946		22	<input type="checkbox"/>	
2001B202	身ぶりとしぐさの人類学：身体がしめす社会の記憶(中公新書; 1311)	野村雅一著	中央公論社	1996	4121013115		<input type="checkbox"/>	
2001B202	心理劇 = The Japanese Journal of Psychodrama 1巻 1号 所収「日常生活と心理劇：実践と研究の間」	黒田淑子ほか著	日本心理劇学会	1996			<input type="checkbox"/>	雑誌
2001B204	精進百撰(岩波現代文庫; 文芸 25)	水上勉 [著]	岩波書店	2001	4006020252		<input type="checkbox"/>	
2001B207	知覚はおわらない：アフォーダンスへの招待	佐々木正人著	青土社	2000	4791758471		<input type="checkbox"/>	
2001B207	知性はどこに生まれるか：ダーウィンとアフォーダンス(講談社現代新書; 1335; Jeunesse)	佐々木正人著	講談社	1996	4061493353		<input type="checkbox"/>	
2001B208	「意識」とは何だろうか：脳の来歴、知覚の錯誤(講談社現代新書; 1439)	下條信輔著	講談社	1999	4061494392		<input type="checkbox"/>	

→ 全釈漢文大系



01/30/70

BN 02963926 中文

論語

123 G54 篆文對照論語殘本

123 J98c 十三經注疏 8: 論語 10  
8

123 Ku95 論語

C30 172 1 論語 (查籍國字解金) 1/卷の中

A12 44-b 新刻改正論語 A12/132/1-2 論語 上・下

928 C62 古口古史文系大系3: 論語 3

082 C62d 新訂 中國史選 2-3. = 上・下 2-3

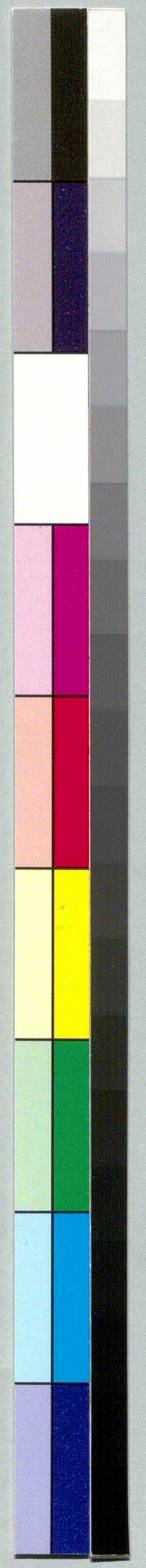
082 C62m 中國史新書: "上・下" (1-2)

082 C62 論語 1. 30

122 C62t 中國の思想 9: "

082 C62c 中國史選 4: "

908 5022c 69 世界文學大系69: 論語 4  
908 5022ch 世界史大系69: 論語 4 = "





総合コース

「新しい100年」(01前-I)

総合コースは、共通な一つの主題について、研究分野の異なる複数の教官が講義するもので、総合的な視野から学ぶものである。

テーマの概要；

本年2001年より21世紀です。新世紀における自然や人間の営みはどのようなものになるのでしょうか。どんな変化が起きるのでしょうか。

世紀の初頭にあたり、時の流れをこれまで人間はどのように捉えてきたか、そして自然環境について、社会の諸方面の活動について、さらに精神面の諸活動について、過去から現在までの学問的成果を踏まえて紹介し、さらに新しい100年を展望したい。そして未来を総合的に理解することを目指したい。

対象学年；1年～4年

履修単位数；2単位

※ 複数のテーマを履修した場合、卒業までに計8単位認められる。

試験方法；試験はレポートにより行う。

課題は二題 (A)テーマを通じての課題 (B)個別課題  
(詳細については、別途指示する)

☞出題日 7月11日(水)

☞締め切り日 9月21日(金)

セミナー；講義担当講師との質疑応答を中心とした「セミナー」を行う。履修する学生は必ず出席すること。

☞7月11日(水)

図書館活動；学生の自主的行動日として、「図書館活動日」を設定している。

☞7月25日(水)

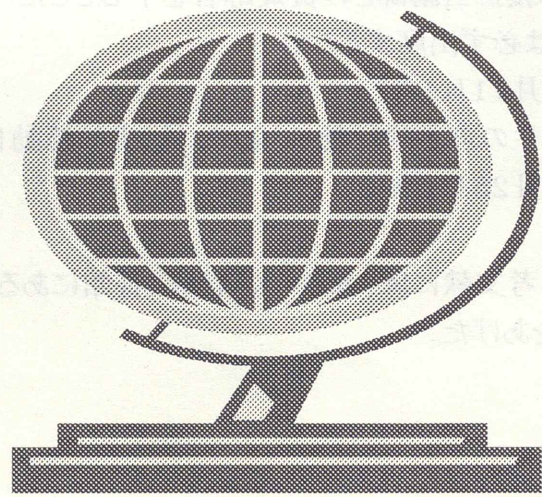
参考文献；参考文献には、なるべく附属図書館にあるもの、あるいは入手可能なものをあげた。



## 「新しい100年」(01前-I)講義日程

開講日時:水曜日5・6時限 13:20~14:50 (共通講義棟2号館201)

月	日	担当講師等	テーマ
01	4月18日	人間文化研究科 新井由紀夫助教授	「シンデレラ」にみるヨーロッパ的時間世界
02	4月25日	文教育学部 三浦徹教授	ムスリムの生活と暦
03	5月 2日	生活科学部 本間清一教授	食環境の変化と食品の品質表示
04	5月 9日	文教育学部 佐藤光子助教授	仏教の未来観
05	5月16日	生活科学部 田中辰明教授	エネルギー・環境問題・住宅
06	5月23日	理学部 室伏きみ子教授	生命科学の21世紀
07	5月30日	文教育学部 伊藤三重子助教授	古代中国人のライフサイクル
08	6月 6日	文教育学部 杉谷隆助教授	資源か環境か
09	6月13日	文教育学部 耳塚寛明教授	学校教育と学歴社会の近未来学
10	6月20日	生活科学部 小谷眞男助教授	胎児の社会科学—法学的アプローチ—
11	6月27日	理学部 藤代一成教授	論理時間と物理時間—時間から見たサイバースペース考—
12	7月 4日	人間文化研究科 竹村和子助教授	
13	7月11日	セミナー	
14	7月18日	予備日	
15	7月25日	図書館活動	



## 「新しい100年」第1講

### 「シンデレラ」にみるヨーロッパ的時間世界

人間文化研究科 新井由紀夫助教授

この講義では、中世以降のヨーロッパ人の時間感覚について、日本と比較しつつ考えてみたい。現代でも、我々とヨーロッパ人とは時間感覚が大きく異なっていると実感することがある。その違いについて歴史をさかのぼってゆくなかで、「紀元千年の恐怖」という話がある。日本における「末法思想」の表れとほぼ時を同じくして、ヨーロッパ・キリスト教社会では、紀元千年にこの世の終末がくると信じられ恐れられた。ちょうど千年前の出来事である。コンピュータ2000年問題と同様、何事もなく紀元1000年をむかえると、人々は神に感謝し先を争って教会を建て、地上はいっせいに教会の白い衣で覆われた、という。

実はそれは後世の作り話ではないかという説もある。しかし自分の生活を、時間や暦を基準にして区切るという考え方が、中世ヨーロッパの修道院の中から生まれたことは、年代記とそこに表されているキリスト教的時間観念から明らかである。この考え方はやがて教会の鐘のリズムや、キリストや聖人の祝日を節目とする暦に人々が従う中で、中世ヨーロッパに深く浸透していった。それはカテドラル建設という何百年も続く大事業を可能にしたが、中世後期になると、教会に縛られない、より普遍的な時間が求められるようになった。すなわち都市商人の手で市庁舎に機械時計がつけられ、労働と日々の生活のリズムはそれによって支配され、教会の鐘は敗退してゆく。

このような変化の過程を、誰もが知っている『シンデレラ』や『サンドリヨン』のお話の変化を紹介しつつわかりやすく読み解いてゆきたいと考えている。

#### 参考文献;

- 宮本常一 『忘れられた日本人』 岩波文庫 1984年 あり
- 福井憲彦 『時間と習俗の社会史』 新曜社 1986年 あり
- ✓ ジャック・ル・コフ (新倉俊一訳) 「教会の時間と商人の時間」 『思想』 663号(1979年6月) あり
- ✓ 金田鬼一訳 『グリム童話集』 (全5巻) 岩波文庫 1979年 あり
- ✓ シャルル・ペロー (巖谷國士訳) 『完訳ペロー昔話集 眠れる森の美女』 講談社文庫 1992年 あり



## ムスリの生活と暦

文教育学部 三浦徹教授

ムスリム(イスラム教徒)は、ヒジュラ暦とよばれる独特の暦を現在まで使用している。これは、イスラムの予言者ムハンマドがメッカでの迫害を逃れて、メディナの町に移住した事件を記念し、この移住の行われた年の元日(西暦622年7月16日)を紀元とする暦で、現在は1422年にあたる。ヒジュラは、アラビア語で「移住」を意味し、この移住をきっかけとして、信徒の共同体が結成されたことから、聖遷と訳されている。この暦からすれば、今年は新世紀ではない。

ムスリムの重要な儀式である断食やメッカ巡礼や各種の祭りは、このヒジュラ暦に基づいて行われ、宗教生活上の暦ということができる。この暦の特徴は、月の満ち欠け(運行)を基準とした完全な太陰暦であり、1年は354日で、閏月をもうけて太陽暦を調製することをしないために、年の始まりは、太陽暦と一致しない。第9番目の月にあたるラマダーン月は、一月の間、日中いっぱい飲み物食べ物を口に入れない断食を行うが、これが夏季になるか冬季になるかで、まったく行の苦しさは違ってくる。また、ひと月の始まりは新月が起点となっているため、天候によっては「新月を見る」ことはできず、断食月が終わったのかどうか、しばしば争点にもなった。

太陰暦は、農業を営むうえでは、都合がよくない。月と季節(気候)が一致しないからである。そこで、農民は、古代からのコプト暦やシリア暦とよばれる太陽暦をつかって、種まきや灌漑などの農事を行ってきた。しかし、国家の財政は、ヒジュラ暦を用いて行われたので、収穫期と税の徴収時期との調整が必要となった。また、イランでは、春分の日を年初とする太陽暦が用いられた。

いずれの暦も日常生活や行事と深く結びついている。ムスリムは、これら複数の暦をどのように管理し、使いこなしていたのだろうか。また、彼らの時間意識について考えてみたい。

## 食環境の変化と食品の品質表示

生活科学部 本間清一教授

食品を選ぶとき最初に中身を確認する。一目でわかる生鮮食品でもすぐに名前が出ない魚や野菜も登場し、外国産も多くなった。加工食品は多くが包装されているので、透けて見えない物は表示された名称や中身をイメージする写真や絵から想像することになる。包装に示された事柄はブランド名と共に商品を選別するとき大きな役割を果たすことになる。したがって、包装に表示されるものは中身の食品を消費者が判断する情報を伝達する役割を担っている。この情報に一定のルール性があると商品が変わっても便利に利用できる。食品の品質に関する情報を一定の基準と信頼性をもって消費者に一括して提供する仕組みがJAS法(農林物資の規格化および品質表示の適正化に関する法律)に基づく食品の品質表示基準である。

### 1. 生鮮食品(農産物、魚、肉類等)

共通ルールとして名称と原産地を表示する。名称は最も一般的なものをを用いる。この共通の表示事項に付け加えて、さらに追加表示すべき事項を定めた基準、即ち個別食品の品質表示基準がある。水産物に適用される「水産物品質表示基準」があり、冷凍と養殖ものはその旨を表示する。

### 2. 玄米及び精米

米は保存性の高い食糧であるが、鮮度嗜好を反映して生鮮食品として個別品質表示基準「玄米及び精米品質表示基準」が設けられた:

名称、精米の原料である原料玄米、内容量、精米年月日(調製年月日)、販売者

### 3. 加工食品

加工食品の品質表示基準が設けられ、共通ルールとして次の事項を表示する: 名称、原材料名、内容量、賞味期限(品質保持期限)、保存方法、製造業者  
加工食品は極めて多様であり、この共通の表示事項だけでは対応ができないので、さらに食品別に定めた品質表示基準(平成13年2月現在55品目)を制定し、きめ細かな対応をしている。例えば、即席麺では調理方法を、果実飲料では「濃縮還元」や「加糖」という作り方を表示する場合などがある。

4. 今回のJAS法改正では、表示対象事項が最終製品の成分などに基づく品質に加え、食品の製造行程を上流に遡り食品素材の氏素性を問う方向性もある。いわゆる「有機(オーガニック)」や「遺伝子」に対応する表示である。



仏教の未来観

文教育学部 佐藤光子助教授

時間とは、人間の生を成り立たせる基本的な形式、カテゴリーであるが、時間をどのようなものとして捉えるかについては、古今東西、じつにさまざまなやり方がある。それは、時間の捉え方というものが、風土や歴史によって規定された文化的産物であることをものがたっている。

現代を生きるわれわれの多くは、時間とは、過去—現在—未来と、えんえんと続いてくっぺらぼうな流れのようなものとしてイメージしているといわれているが、これは、近代的な思考方法の枠組みを形成したというニュートン力学的な時間観、すなわち、時間、空間を均質のものとして捉える理解のもとで可能となった時間感覚である。

しかし、時間の捉え方はこれにつきるわけではない。たとえば、古代人にとっての時間は、決して均質なものではなく、時間は聖なる時と俗なる時の交錯のうちに成立するものであった。宗教的時間論もまた、救済の達成される特権的な聖なる時を、時間の中心軸に据えている。

本講義においては、古代インドで生まれ、東アジア全域に広がり、日本の思想文化にも多大な影響を与えた仏教の時間観念について、特にその未来観に焦点をあてて考察する。以下、講義で扱う諸問題について示す。

1 仏教の時間観の基本的特質

- (1) 無常観 —— 仏教の基本教理
- (2) 輪廻観 —— 古代インドの基本思想
- (3) 他の宗教の時間観との比較 —— ユダヤ・キリスト教、イスラームの直線時間と仏教の円環的時間

2 仏教の未来観の諸相

- (1) 浄土思想 —— 末法思想と往相・環相
- (2) 弥勒信仰 —— 仏教における終末信仰
- (3) 仏教とゾロアスター教

エネルギー・環境問題・住宅

生活科学部 田中辰明教授

1973年に起こった第一次石油危機の後わが国では省エネルギーについては関係省庁のとりまとめを行うようになった。1978年からはムーンライト計画を中心に技術開発に取り組んできた。新エネルギーについても1974年からサンシャイン計画を中心に技術開発を始めた。このように、政府と民間が協力し、エネルギーの安定供給の確保を努めてきた。しかし、エネルギー消費はこのところ増え、最近の6年間では平均で年率3.5%という高い伸び率を示している。その理由として石油価格が安定していることに加え、ゆとりと国民のライフスタイルの変化などがあげられる。一般に省エネルギーに対する意識が薄らいでいる感が強い。世界の生産工場、成長センターであるアジア地域は、高い経済成長の一方で、低いエネルギー消費効率のため、エネルギー消費が今後急増することが予想される。その結果、将来、アジアだけでなく世界のエネルギー需給が逼迫する。またエネルギー消費に伴って発生する二酸化炭素の排出量は、地球の温暖化を防ぐ為に気候変動枠組み条約も発効している。これは大気中の温室効果ガス(二酸化炭素やメタンなど)の濃度を安定させ、地球温暖化を抑止することを目的に、1992年の地球サミット(開催地:ブラジル、リオデジャネイロ)で採択され、1994年に発効したものである。現在、日本を含む186カ国・地域が条約を締結しており、この条約の目的を達成するため、日本で開催されたCOP3の「京都議定書」では先進国などに対し、温室効果ガスを1990年比で1988年から5年間で一定数値(日本6%、米国7%、欧州連合(EU)8%など)を削減することを義務付けた。この義務付けは人類が今後とも地球上に住んでいく為に絶対に必要なことではあるが、その達成は非常に困難なものになっているのは前述の通りである。わが国では民生用エネルギー消費が27パーセントに達し、この割合は増えつづけている。一般建築や住宅で消費されるエネルギーが増大しているので、我々生活者の意識改革が、必要である。講師が研究を行ってきた省エネルギー建築、代替エネルギー利用建築、省エネルギー住宅について講義を行う。特に住宅の「外断熱工法」については本学における研究が世間で注目されているので、学生諸君のご理解を得たい。



生命科学の21世紀

理学部 室伏きみ子教授

最近、政治家までもが、ITやバイオ技術が21世紀を支える産業の柱となると声高に喧伝している。あながちこれらは間違いではないであろうが、特にバイオ—これは即ち狭義の生命科学という捉え方ができよう—を対象とした場合、経済的な側面からのみこの問題を考察することは、大きな間違いを引き起こす可能性があることに、私たちは十分な注意を払わなければならない。では生命科学の21世紀はどんなものになるであろうか。

20世紀は生命をめぐる学問が長足の進歩を遂げ、「生命科学の世紀」とも云われた。そして今21世紀を迎えて、生命科学に対する社会の期待と疑念が膨らみ、社会に対する生命科学の責任が益々高まっている。現在、多くの生命科学に関する情報が私たちを取り巻いており、私たちは、情報の洪水の中にとってもよいだろう。中には全く科学的な根拠のない情報までもが、その中に混在しており、私たちがそれらの情報をどのように取舍選択したらよいか、そしてそれらをどのように理解し整理して、対処していったらよいかを考えることが、今、非常に重要になって来ている。

人々が間違った判断に陥らないためには、生命科学を正確に人々に伝えるという作業が極めて大切である。特に、21世紀には生命科学の重要な問題として、次のようなものが浮かび上がってくる。脳死と臓器移植の問題、遺伝子診断と遺伝子治療の問題、生殖医療や再生医療などに於けるクローン生物の問題、少子化と高齢化の問題、遺伝子組換え作物の問題などがそれである。これらの問題は、生命科学だけで説明できない面も包含するが、これらの問題について、社会的な誤解や疑心暗鬼を避けるために人々に安心できる情報を与え、責任を持った判断をするための基盤を上げるためには、正確な生命科学の啓蒙を社会の中に根付かせなければならない。この作業が、21世紀の大学人が担うべき重要な役割なのではあるまいか。お茶の水で学ぶ若い女性達に、私は、それらの役割を期待している。

本講義を通じて、私たちがどのように生命科学の21世紀にかかわっていったらよいか、一人一人が考える機会を作りたいと考えている。

古代中国人のライフサイクル

文教育学部 伊藤三重子助教授

『論語』為政篇の有名な言葉に、「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えど矩をこえず。」という言葉がある。この言葉は、人のあるべき成長過程を表現したものだともいわれる。ここから年齢を指す言葉として、「志学」「而立」「不惑」「知命」「耳順」が用いられるようになった。その他、「弱冠」「還暦」「古希」といった言葉も、中国の古典に基く言葉である。中国の古典の中で、おもに『論語』と『礼記』内則篇の年齢に関する記述をいくつか紹介しながら、いにしへの中国の人々は、人の一生をどのように考えていたのか、ということを見てみたい。

先ず最初に、「還暦」の話をするので、あらかじめ、「十干」「十二支」が読み書きできるようにしておいてほしい。

参考文献；『論語』：日本語訳は種類が多い。どの訳本でもよいから一度は読んでみてほしい。何種かの訳本の訳を比べてみるのも一興。

『礼記』：この書も訳本はいくつかあるが、集英社の全訳漢文体系がよみやすい。

水上静夫『干支(えと)の漢字学』(大修館書店 あじあブックス007)



資源か環境か

文教育学部 杉谷隆助教授

1. たとえば、「空気」は環境だろうか？

たしかにわれわれは地球大気に”取り巻かれて”生きており、周知のように大気汚染やオゾン・ホールの問題が”環境”問題として国際的に論じられている。だから、立派に環境だといえる。

しかし、たとえば銭湯では、重油を”空気で酸化して”発生させた熱でお湯を湧かす。銭湯はそのお湯によって収益をあげるわけなので、空気は資源とはいえないだろうか？ しかし、銭湯が市役所や国に”空気代金”を支払った話は聞いたことがない。実は、空気とか水といったものは、あまねく存在するので、資源か環境かという人間の(社会制度上の)価値判断が、曖昧なのである。

2. ある事例

私が20年来調査している、福井県大野市の地下水の過剰揚水問題を事例として取り上げて詳述する。地下水は、法的には「土地所有権に付随するもの」、つまり「勝手に汲み上げてかまわないもの」であったがために、産業用・融雪用の大量揚水のあおりを受けて、家庭浅井戸が枯渇して社会問題化した。その顛末を追う。(多少の陸水学の知識が必要だが、高校で地学を履修しなかった人のために解説も加える)

3. これからの法・社会制度

これからは、「炭素税」などのように、産業革命以来だれも想定しえなかった「経費」を支払わなければならない時代になるだろう。その世界的な価値観の変動について、ごく簡単に解説する。

●レポート課題、参考文献(希望者には筆者の論文のコピーをあげます)は、講義中に示します。

学校教育と学歴社会の近未来学

文教育学部 耳塚寛明教授

Merit(=IQ+Effort、すなわち能力+努力)を持った社会成員をエリート的地位へと選抜し、彼らが人々を支配する社会を、meritocracy(メリトクラシー)という。分岐型もしくは単線型の学校系統を整備し、義務教育学校から後期中等学校への移行段階、後期中等学校から高等教育への移行段階において、能力原理にもとづく選抜を徹底させることによって、属性原理的な社会的地位の相続を封じるとともに、幅広い社会階層的背景から高度人材の選抜を目指すのが、近代社会におけるmeritocracyの粗型である。

近代社会における、meritをめぐる主要な社会的競争の場は、ほかならぬ学校教育であった。学校教育におけるmerit競争の勝者には学歴、学校歴が与えられ、職業社会における地位達成などにおいて優位に立つ。これを人々は学歴主義の社会として批判的にしてきた。しかし、学歴主義と学歴獲得競争の場としての学校教育は、他方で、人々の「生まれ」に基づく社会的制約(属性主義)から人々を解放する側面、階層的背景によらずに高度人材を選抜する側面を持っていたことにも注意しなければならない。

近未来において、近代社会がもっていたそうした人材の選抜システムはどのように変容するのだろうか。学歴社会と学校教育は、どう変化しつつあるのか。この講義では、学校と職業世界との接点にまずは焦点を合わせることによって、そこから、学校教育と学歴社会の近未来学を展開することにした。

参考文献;

- 竹内洋『日本のメリトクラシー』東京大学出版会、1995 あり
- 矢島正見・耳塚寛明編『変わる若者と職業世界』学文社、2001(近刊)



胎児の社会科学 —法学的アプローチ—

生活科学部 小谷眞男助教授

胎児という問題は、21世紀の社会科学に与えられた最も重要なテーマのひとつである。「児童の世紀」などと揚言された20世紀の変遷はもちろん単純ではなかった。それでも世紀末葉には「子どもの権利」という概念を人類全体で共有しようではないかという理念の表明がなされるといふところまでいった。これはひとつの到達点であるが、なお問題は、その先にある。理念の実現に向けてやるべきことがあまりにも多いというだけではなく、理念それじたいのうち、親子関係そのものの展望がまだ明確には切り開かれていないという致命的な欠陥があるのだ。

この点を最も先鋭な形で示すのが、胎児という問題である。「子どもの権利」は認められたが、「胎児の権利」は認められたのだろうか。そもそも胎児は「人」なのか、そうでないのか。中絶する母親の「権利」と胎児の「権利」の拮抗はどのようにして調整すべきなのか。多くの国々で激しい対立を引き起こしている、この親子関係の究極的な形態の問題について、20世紀の社会科学はついに基本的な指針を与えることができなかったのである。

この講義では、特に胎児の法的地位という点に着目して、20世紀の回顧と21世紀の展望を試みる。

参考文献:

- ✓バーバラ・ドゥーデン『胎児へのまなざし—生命イデオロギーを読み解く』阿咩社、1991年
- ✓1993年
- ✓石井美智子『人工生殖の法律学—生殖医療の発達と家族法』有斐閣、1994年
- ✓金城清子『生命誕生をめぐるバイオエシックス』日本評論社、1998年
- ✓中谷瑾子『21世紀につなぐ生命と法と倫理—生命の始期をめぐる諸問題』有斐閣、1999年
- ✓大谷實『いのちの法律学(第3版)』悠々社、2000年
- ✓本田和子『子ども100年のエポック—「児童の世紀」から「子どもの権利条約」まで』フレーベル館、2000年
- ✓米本昌平ほか『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』講談社現代新書、2000年

論理時間と物理時間 —時間からみたサイバースペース考—

理学部 藤代一成教授

ますます発展するコンピュータとそれらを結ぶネットワークは、さまざまな応用向けにバーチャルな空間～サイバースペース(cyberspace)～を生み出し、実世界における従来の時空間の概念を一変させてきました。

例えば、遠く離れた諸外国に出かけて行き、実際に興味ある対象を見聞する代わりに、関連するウェブサイトアクセスすれば、昼夜を問わず瞬時に、その場に居ながらにして目的の情報を入手できる可能性が出てきたのです。ウェブ上では、地球上のいたるところが同じ時刻をもち、互いに等距離に位置するように時空間が再構成されたといっても過言ではないでしょう。また、1秒間に100兆回以上の計算ができる、夢のような超高速計算機が実際に登場し、これまで一生かかっても終わらなかった複雑な計算の結果を見ることができるようになりました。その成果を利用して、近い将来には、地震波の発生と同時に伝播する可能性のある地域を、実際に揺れが起きる前のきわめて短い時間内にサイバースペース上で特定できるようになります(スーパーリアルタイムの実現)。そうすれば、予め周到に用意されたシナリオにそって対策を講じ、実世界の被害を最小に食い止めるような防災論も不可能ではなくなるでしょう。さらに電子メールの次に普及すると考えられるコミュニケーション手段であるチャットでは、専用のレコーダを用いることによって、時間を遡って自分ではない別のユーザの目線で過去の対話を追体験することができます。時間の不可逆性すらサイバースペースでは取り払うことが可能なのです。

実世界で進行する物理時間(physical time)に対して、このようにサイバースペースの中で人間自らが創り出し、コントロール可能な時間を論理時間(logical time)とよぶことにしましょう。

本講義では、上記以外にもさまざまな事例をあげて、論理時間の意義と可能性を検証し、情報のクリエイターおよびコンシューマから見たサイバースペースの光と影について講述します。

参考文献:

- ✓T. L. Kunii and A. Luciani (Eds.): *Cyberworlds*, Springer-Verlag (1998).



文学とジェンダー/セクシュアリティ

人間文化研究科 竹村和子助教授

未来は過去を検証することからはじまる。いったい20世紀は文学にとってどのような時代だったのか。それはあまりにも大きな話題なので、それをジェンダー/セクシュアリティの面から考えてみよう。

20世紀はまた、「女の世紀」と呼ばれてきたからだ。「女」ということと、この講義の題名に含まれているジェンダー/セクシュアリティはどう関係するのか、いったい「ジェンダー」や「セクシュアリティ」と言っても、それは何だろうと思う人がいるだろう。授業で詳しく述べるが、おおざっぱに言って、「ジェンダー」は社会的な性役割、「セクシュアリティ」は性欲望とか性実践といった「個人的」で「身体的」なこととみなされている。

20世紀は、女にまつわる「本質的な」事柄が社会的に構築されたものだという考えを突き詰めた100年だった。そして20世紀の最後の10年に、セクシュアリティという「個人的」で「身体的」だと思われているものも、じつは社会的に構築されたもの、ジェンダーだという見方が生まれた。現在のフェミニズム理論は、おおむねこの見方を梃子に性の体制をより精緻に論じようとしている。

文学においても、前世紀はじめに、イギリス人作家のヴァージニア・ウルフが『自分だけの部屋』という評論のなかで、文学生産や受容において、性の非対称があることをはっきりと訴えた。この本は60年代以降の第二波フェミニズム、とくにフェミニズムの文学理論に大きな影響を与えたが、ウルフはまた小説家として、20世紀の最初に、ジェンダーのみならず、セクシュアリティまでも攪乱するような作品を書いた。しかし、このことが彼女の小説の中心的テーマとして深く掘り下げられるようになったのは、やはり第二波フェミニズム、さらには90年代のセクシュアリティ研究を待たねばならなかった。

授業では、ウルフの『自分だけの部屋』に言及しながら、彼女の作品『ダロウェイ夫人』を分析する。あわせて、『ダロウェイ夫人』の翻案とも言えるロビン・リピンコットの『ダロウェイ氏』を紹介する。『ダロウェイ氏』は20世紀が終わろうとしているとき、1999年に、アメリカで出版されたゲイ男性を主人公にした作品である。20世紀に問題化され、深く広く思考されてきた性の言説が、21世紀にどのような文学テキストを生み出すのかは、わたしたちが20世紀の文学をどのように読むかにかかっていると思われる。

参考文献

- √ Virginia Woolf. *A Room of One's Own*. London: The Hogarth P, 1929.  
↓ (ヴァージニア・ウルフ『自分だけの部屋』川本静子訳、みすず書房、1988年) → 別冊あり
- . *Mrs. Dalloway*. London: The Hogarth P, 1925. 葉子  
↓ (ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』近藤いね子訳、みすず書房、1976年)。 田
- √ Robin Lippincott, *Mr. Dalloway*. Louisville: Sarabande Books, 1999.
- √ 竹村 和子『フェミニズム』岩波書店1999年 あり

からだ  
「文化の中の身体」(01前-II)



文化の中の身体(II) 総合コース

(105番号S2新編版共) 08:01~00:01 週期8・7日 水・日 隔週

「文化の中の身体」(01前-II)

総合コースは、共通な一つの主題について、研究分野の異なる複数の教官が講義するもので、総合的な視野から学ぶものである。

テーマの概要；

「文化」とは文明が進んで生活が便利になることである一方、真理を求める常に進歩・向上をはかる人間の精神的な活動(学問や芸術活動など)をも意味する。つまり、私たちの「からだ身体」は、文化の中で生きているといっても過言ではない。本コースは、多彩な学問領域から、現代に生きる私たちの「文化の中のからだ身体」を見つめ直し、実りある学生生活を送るための知識を得る機会として開講された。

対象学年；1年～4年

履修単位数；2単位

※ 複数のテーマを履修した場合、卒業までに計8単位認められる。

試験方法；試験はレポートにより行う。

課題は二題 (A)テーマを通じての課題 (B)個別課題  
(詳細については、別途指示する)

☞出題日 7月11日(水)

☞締め切り日 9月21日(金)

セミナー；講義担当講師との質疑応答を中心とした「セミナー」を行う。履修する学生は必ず出席すること。

☞7月11日(水)

図書館活動；学生の自主的行動日として、「図書館活動日」を設定している。

☞7月25日(水)

参考文献；参考文献には、なるべく附属図書館にあるもの、あるいは入手可能なものをあげた。



からだ  
「文化の中の身体」(01前-Ⅱ)講義日程

開講日時:水曜日7・8時限 15:00~16:30 (共通講義棟2号館201)

月	日	担 当 講 師 等	テ	マ
01	4月18日	文教育学部 水村真由美助教授	美しくなりたい身体—体脂肪と健康—	
02	4月25日	生活科学部 黒田淑子教授	日常生活に開かれた心理劇—身体が あらかず人間関係—	
03	5月 2日	人間文化研究科 内田伸子教授	人間発達の可塑性—からだところの 結びつき—	
04	5月 9日	生活科学部 森光康次郎助教授	機能性食品研究の最前線—氾濫する体 により食品情報とうまく付き合うために—	
05	5月16日	生活科学部 徳井淑子教授	身体を社会化する衣服	
06	5月23日	生活科学部 富田守教授	人類史におけるヒトの身体の変化	
07	5月30日	東京大学 佐々木正人教授	行為の生態学	
08	6月 6日	人間文化研究科 箕浦康子教授	メディア・子ども・身体	
09	6月13日	文教育学部 波平恵美子教授	文化人類学の立場から	
10	6月20日	生活科学部 井原成男教授	摂食障害と身体	
11	6月27日	文教育学部 杉山進助教授	体育とからだ	
12	7月 4日	文教育学部 薦田治子助教授	音楽における身体	
	7月11日	セミナー		
	7月18日	予備日		
	7月25日	図書館活動		



からだ  
「文化の中の身体」第1講

美しくなりたい身体 —体脂肪と健康—

文教育学部 水村真由美助教授

多くの女性は美しくなりたいという願望をもっている。美しいとされる理想の身体像は、時代や地域、環境といった文化的な要因の影響を大きく受けて形成される。またダンスや一部の競技スポーツでは、美しさを身体やその動きに求め、美しさを評価して競い合うといった運動種目もある。昨今は、女性の「痩せた」身体に対する願望が強まることによって、10~20歳代の「痩せぎみ」の女性の割合が年々増加していることも厚生省の調査などで指摘されている。

本講義は、さまざまな文化の中で「美しい」とされた身体像の変遷を概説しながら、現代における「美しい身体」とは何かを考える。また女性は、その生理的機能から、男性に比べて、体脂肪を身体に多く貯える。これらの体脂肪は、女性の身体の生理機能が正常に働くうえで、必要不可欠な組織である。しかしながら、こうした生理的機能を無視して、現代の女性の痩身願望は年々高まり、無理な減量法により、健康を害するケースも少なくない。体脂肪を悪者のように捉えて、ひたすら「痩せた身体」を求める痩身願望の問題点を、生理学的に考察するとともに、体脂肪の役割を考慮したうえでの健康的な減量法に関する情報を紹介する。そして本講義を通じて、身体の機能から考えた「美しい身体」とは何かを考察する。

参考図書:「運動とからだ」水村(久埜)真由美、山海堂

「女性のライフステージからみた身体運動と健康」宮下充正編、杏林書院 あい



日常生活に開かれた心理劇 —身体があらわす人間関係—

生活科学部 黒田淑子教授

現代の人間関係を考えるにあたっては、人間関係の希薄化、孤立化など「出会えない」状況に関する問題と同時に、「出会いの先がどうなっているのか」という人間関係の質的なあり方を問う問題にも着目することが必要ではないでしょうか。出会いの先での人間関係の問題状況には、例えば、一方的な支配・服従の関係の強制、二者択一的な選別と排斥、十把一絡げによる個性の無視、外との関係の通路が遮断され内の関係が固着してしまっている状況などがあります。これらの問題状況に対処していくには、ふだんの生活において、人びとの人間関係を、どう、しなやかに、関係発展的に形成していくかが課題となるのではないのでしょうか。

Moreno (1946)によって創始されたサイコドラマ・心理劇は、人間生活の営みと深いつながりがあり、参加者が自発的につくっていく即興のドラマです。現在、世界の各地で、それぞれの文化・専門領域に応じた多種多様な心理劇が行われています。日常生活のいろいろな場面で、特に、さまざまな人びとが集い、ふれあい、交流する場面で、心理劇を活用すると、誰もが、自由にふるまい、感じ、考えることができるような活気のある活動が生まれることがあります。心理劇の人間観や理論・技法には、かけがえのない一人の人間としての個の生き方、人間関係のあり方、また日常の問題・課題への対処の仕方を思索し、実践していく上での貴重なヒントが含まれているのではないかと思います。

ここでは、身体的相互関与に関する諸研究(野村 1996他)および関係状況を基盤とする心理劇の理論・技法(松村1961他)にも言及しながら、人と人とのかかわり方をテーマとする心理劇、特に身体で人間関係を表演する心理劇を、墨絵や関係構造図を用いて紹介します。そして、身体があらわす人間関係の変動の具体例に即して、日常生活における人間関係の問題状況とその転換のあり方や相互支援のかかわり方について考えるヒントを探っていきます。

参考文献:

- √1) Moreno, J.L. 1946 Psychodrama Vol.1. Beacon House
- √2) 松村康平 1961 心理劇—対人関係の変革—. 誠信書房 **あり**
- √3) 野村雅一 1996 身ぶりとしぐさの人類学—身体がしめす社会の記憶—. 中央公論新社
- √4) 黒田淑子 1988 生きることと人間関係—心理劇の活用—. 学献社 **あり**
- √5) 黒田淑子・野並美雪・神井知子・山口香苗・梶田智子 1996 日常生活と心理劇—実践と研究の間—. 心理劇 1-1, 25-38

人間発達の可塑性 —からだところの結びつき—

人間文化研究科 内田伸子教授

ヒトとして生まれても、生物学的要因、社会・文化的要因のいずれか1つでも十分に機能しなければ、人間にはなれない。言語的・社会的・文化的・栄養的な刺激が剥奪された養育放棄の環境下では、からだが発達しないのはもちろんのこと、ことばの獲得は遅れ、自我や行動の発達も遅れるなど精神機能への影響ははかり知れない。しかし、環境の改善やある種の補償教育により遅滞からの回復が可能である。本講では、からだは認識の原点であり、ころはからだと深く結びついていることを示す母性的刺激が剥奪された環境下で生き延びた養育放棄の事例を取り上げることによって、人間の発達の可塑性がいかに大きいかにについて論考を進めたい。

参考文献

- √1. 内田伸子 1999『発達心理学—ことばの獲得と教育—』岩波書店 **あり**
- √2. 藤永 保・斎賀久敬・春日 喬・内田伸子 1987『人間発達と初期環境』有斐閣 **あり**



機能性食品の最前線 — 氾濫する体によい食品情報とうまく付き合うために —

生活科学部 森光康次郎助教授

現代ほど食品に関する情報が巷に溢れ、さらに先進国では「飽食の時代」と言われるほどの食糧流通と安定供給が可能になった時代が、これまでの人類史上には無かったのかも知れない。日本に於いても終戦直後の食糧難と栄養失調の時代とは違い、食品製造メーカーなどでは味の優れた、新鮮な、さらには新しい風味や食感を持つ食品の開発が競われるようになった。最近では「体によい食品 = 機能性食品」に関する情報と新商品がマスコミを中心に隆盛を続けており、この勢いをさらに突き上げているのは一般消費者の体によい食品情報への欲求であることは間違いないと思われる。多くの健康情報番組や雑誌、新しい機能性食品が話題にのぼっている反面、まがい商品の不当販売等によりベンチャー企業が摘発された例も出現し始めている。われわれはどの情報を信じ、何を食べたらよいのか？ 明日の食料を心配していた時代には到底考えも及ばなかった「21世紀人の新たな懸案事項」とも称するべきであろうか。また、厚生労働省を中心に、法的にも「特定保健用食品」制度がすでにスタートしており、さらに「保健機能食品」というくりの中で「特定保健用食品」と「栄養機能食品」というカテゴリーに分け、この分野の管理体制をより整備しようとする動きも始まっている。

そこで、本講義では益々氾濫するであろう「体によい食品情報」と上手く付き合うために、われわれは何を知り、何を考えればよいのか、そのための指針をいくつか提示できれば幸いであると考えている。現在、自らが機能性食品研究に従事していることもあり、本講義はこれらの研究動向を否定するものではなく、むしろ正しい方向へ積極的に肯定するためのものと理解していただきたい。そのために当該分野での研究最前線が、一体何をどこまで明らかにしているのか例を示して平易に説明したいと思う。

体によい食品情報とは、決して現代人のものだけではなく、むしろ太古より「健康でありたい」とか、「疾病を治したい」という人類の普遍的な欲求に対する模索の結果なのであろう。その情報の集大成が食文化であったり、ハーブや生薬、民間伝承薬の利用法となって現代にも息づいているのだと思う。祈祷師や呪い師、錬金術者でもない現代の化学者の目を通して、今、氾濫している体によい食品情報が本当に「温故知新」となって役立っているのかを受講者と共に検証したい。逆に、ホモサピエンス(賢者)であるわれわれは、本当に食を正しく理解しているのかこの機会に考えて欲しい。

参考文献;

√・くらしの中の化学と生物 6「何を食べたらよいのか」日本農芸化学編・杉本ら責任編集(学会あり出版センター) ¥1,600.-

√・岩波現代文庫「精進百撰」水上 勉著(岩波書店) ¥900.-

身体を社会化する衣服

生活科学部 徳井淑子教授

ひとはなぜ衣服を身にまとうのか？ 寒暑や風雨など天候の危機を初めとするさまざまな危険から身体を護るためであることはもちろんだが、そればかりではない。流行のファッションがあり、制服や校服などみなが揃って着る衣服があり、あるいは TPO と称される社会通念がある通り、衣服はひとの文化的・社会的な生活と密接に関わっている。ひとが一日のあいだに活動に応じて着替えをし、あるいは冠婚葬祭などの行事にしたがって着替えをするのは、各々の行動に適した身体の快適さを求めるためでもあるが、それ以上に社会生活を営むために不可欠であるからである。つまり衣服はひとを社会化する手段である。

職業上の制服はひとを社会化する衣服の最たるものである。警官は制服を着ていればこそその任務をまっとうできる。ところで制服は集団の一員であることを明示することによって、同じ制服を着ている者には同類であることを示し、そうでない者には自身の特性を主張する。このことは各自の自由な意思と趣味で着ているはずの流行のファッションにあっても同じことである。おのれの個性を表そうとして選んだ服装も、結局は普遍化した流行のなかに埋没してしまうことはよくある。このようにして衣服は常に社会生活のなかでひとを区別化すると同時に同じものとして分類する。

衣服の歴史とは身体をいかに差異化し社会化してきたかの営みであったと言える。本講ではヨーロッパの歴史のなかから、そのような事象の特徴的なものを取りあげ、世界の広くで着られているいわゆる洋服の伝統を知ることにより、身体を社会化する衣服の今日的意味を考える。日本の着物とは異なり、ヨーロッパの衣服は身体をさまざまに誇張・変形させ呈示してきた。そのような形態上の特質はもちろん、そもそも分類機能をもっている色彩もまた差異化に貢献してきた。子どもと大人など年齢による区別、民族の区別、男女の区別あるいは宗教上の倫理観などがどのように示されてきたか、色と形に注目して解説する。

参考文献 D. アレクサンドル=ビドン「巻き紐から衣服へ—中世の子ども服」、M. パストゥロー「青から黒へ—中世末期の色彩倫理と染色」、P. ビュロー「《ズボンをめぐる争い》—13-16 世紀」(いずれも『中世衣生活誌』徳井淑子編訳 勁草書房 2000 年

生活文化)

√所収); 徳井淑子『服飾の中世』勁草書房 1995 年 あり



人類史におけるヒトの身体の変化

生活科学部 富田守教授

ヒトの身体は、その長い進化史のなかで大きく変化してきた。とくに頭部は、人類進化史のなかでも大きく変化した身体部分である。すなわち、脳部は巨大化し、顔面部は縮小退化してきた。この変化はヒトが作り出し、発達させた特有の生活方式—文化、と密接な関係があるのではないかと考えられる。文化はさらに発達しつつあり、その影響によって現在もヒトの身体には変化が起こっていると考えられる。

行為の生態学

東京大学 佐々木正人教授

運動システムの制御の問題を下位運動系の協調、組織化と、配置換えという主題のもとに検討する。

ここで対象となるのは重度の運動障害者である。一旦運動の大部分を失った身体はどのようにして運動スキルを再度獲得するのだろうか。まず頸髄損傷者が麻痺によって感覚を失った手、全身で靴下を履く過程を検討する。そこではいくつかの身体部位の柔軟な組織化が達成されることが運動の発達であるという事実を見る。ついで観念失行の脳梗塞者が行為のプランを再び獲得していく過程を見る。そこでは行為が目的まで進行できることが種々の物の配置換えを介していることを見る。これらの事実が生態心理学のアフォーダンスというキーワードの下に議論される。

参考文献

- ✓「アフォーダンスの心理学」新曜社 細田訳 ジェンタ
- ✓「アフォーダンス」岩波科学ライブラリー 佐々木著 あり
- ✓「知覚は終わらない」青土社 佐々木著
- ✓「知性はどこに生まれるか」講談社現代新書 佐々木著



メディア・子ども・身体

人間文化研究科 箕浦康子教授

パソコン・インターネット・テレビゲーム・デジタル放送などがわれわれの生活のなかに深く入ってきて、われわれが生きる環境は大きく変わりつつある。われわれの生活の枠組を根本的に変えるという意味では、産業革命に匹敵するようなデジタル革命が、いま、進行しつつある。すなわち、デジタル化によって、新しい「文化」が生成しつつあるのだ。こうした文化の変容期には、さまざまな臨床的な問題がおこる。

本講義では、こうしたメディア環境の変化が子どもの心や身体にどのような影響を与えつつあるのか、あるいは与える恐れがあるのかに焦点をあてたい。以下のような問題をとりあげる予定である。

生後6年間の急速な脳の成長と脳の来歴

身体運動による感覚統合の促進:感覚統合療法について

三次元で身体を動かすこととメディア遊び:発達臨床上の問題

コンピュータの学校教育への導入:何が問題か

メディアへの依存:インターネット中毒、テレビゲーム中毒など

参考文献

- √佐伯 胖 1997『新・コンピュータと教育』岩波新書 あり
- √下条信輔 1999『<意識>とは何だろうか:脳の来歴、知覚の錯誤』講談社現代新書
- √菅谷明子 2000『メディア・リテラシー』岩波新書 あり

文化人類学の立場から

文教育学部 波平恵美子教授

解剖学にその源をもつところの臨床生体医学biomedicine、あるいは近年の人ゲノム解読に代表されるような遺伝学の発達、人間の身体を客観的分析対象として見る見方を人々の間に普及させることになった。人の身体は、その結果、個人差はあるものの、普遍的な法則によって理解可能なものでありかつ人間の行動や思考も又身体に還元されると考えられる傾向が強くなってきている。しかもその身体は上記のように普遍的な法則によって成り立ち存在するという認識が一般的になろうとしている。

ところが、いうまでもなく、個人の側から見れば、自己の存在は身体を「場」「在処」としており、個人は身体そのものでもある。外から見れば個人の身体は客観的な分析対象物であり、他の個体との間に共通性の高いものが抽出されるようなものとして認識されるのであるが、個人にとっては自分は自分でしかあり得ない。こうした二面性、二重性を解決する方法をそれぞれの文化は発達させている。その一つの例は、臨床生体医学ないしは現代医学が示す病気観とは大きく異なる病気観が、現代医学の発達した社会でも多く見られることである。または死体の処理を含む死者儀礼である。それらの事例を示すことを通して、身体と文化について講義する。



摂食障害と身体

生活科学部 井原成男教授

ここでは拒食や過食をその症状とする摂食障害の問題についてとりあげる。この障害は1970年代から徐々に増加しはじめ、1980年代の終り頃にかけてそのピークを迎え、現在ではその内容を変質させながら、さながら現代の女性を取り巻く流行語の観をていするに至っている。若い女性でこの言葉を知らない人は、まず、いないのではないだろうか。そしてまた、病院を受診しないために統計にはあげられないものの、密かに拒食や過食そして嘔吐をくりかえしながら、悩み苦しんでいる摂食障害「予備軍」とも呼ぶべき女性たちも多いと思われる。こうした推移を背景にして考えるならば、この問題は単に病院臨床的な問題にとどまらぬ現代的な問題、それも女性を取り巻く様々な問題をうつしだす写し絵のような機能を担うに至っているのではないか。ここには現代の女性を取り巻く様々な問題がビビッドに現われているに違いない。それがこの講座で、摂食障害の問題をとり上げる理由である。

またここには、「やせて綺麗になりたい、やせれば幸福になれるかもしれない」という身体の物質的な側面にのみ価値をおく、現代の価値の物質化の問題、いうならば私たちが今身体をどのように見ているのかという、身体観が如実に映しだされる。

そうした様々な問題について、できるだけ臨床的体験を踏まえつつともに考えていければと思う。

講義ではおおよそ以下のような順序で話す予定である。

1. はじまりは思春期やせ症
2. 思春期やせ症から摂食障害へ：摂食障害における Anorexia Nervosa の位置
3. 摂食障害の時代的変遷：拒食から過食へ
4. 欲望の解放と抑圧
5. 食を取り戻すということ
6. 発達の中でみた食
7. 摂食障害と観念性

摂食障害は女性の問題がビビッドに現われる場であると述べた。ということはそこに、それを女性の問題にしている男性の問題も現われるということである。摂食障害には障害という名前が付けられているが、それを障害としてのみとらえるのではなく、ポジティブにとらえなおす転回点も見出だしていければと思う。

体育とからだ

文教育学部 杉山進助教授

身体に直接的に関る教科として体育は、どのような身体を理想として目指してきたのかを、日本の学習指導要領から振り返りながら、今後の生涯スポーツを目指す高齢化社会で求められる身体像について考える。



音楽における身体

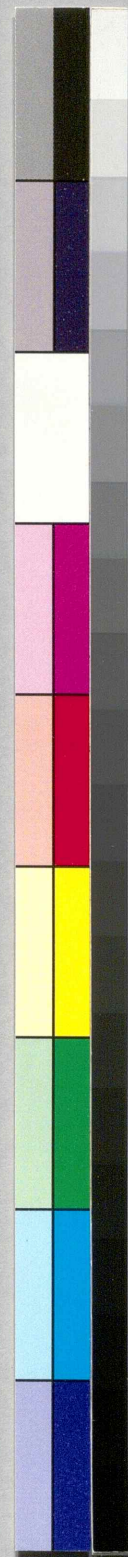
文教育学部 薦田治子助教授

音楽が文化の中の重要な一領域をなしていることは言うまでもない。録音再生のさまざまなメディアが開発されている今日においても、音楽は、体を使って表現される体現芸術であるという本質には変化はない。その意味で、「音楽における身体」というテーマは、様々な問題を提起する。

もっとも直接的なかかわりの例としては、音を出す手段としての体がある。歌を歌う。これは喉という身体の一部を震動させて行なわれる行為である。手をたたく、足踏みする、など、体の一部を発音体として用いる場合も少なくない。共鳴体として体を用いる場合も少なくない。口腔を用いるものに、口琴や楽弓がある。口にくわえて音をだすと、口腔内に共鳴して、音量が増幅されるばかりでなく、音色を様々に変化させることが可能である。膝の上にドラあるいはコトを載せ、太腿の間の空間を共鳴体とする場合もある。楽器を用いる場合も身体は重要な働きをする。まず手である。叩く、弾く、擦るなど、さまざまな手の動きによって、皮や弦や筒（空気柱）に震動を与える。直接手や指を使わず、何らかの道具や仕掛け（鍵盤、弓、撥、義爪、桴など）を媒体とすることもある。これらは、ある意味で手の延長と捉えることも可能である。楽器と身体とのインターフェースの形態は様々である。

日本の伝統音楽の世界では「手」は楽器に関連するいくつかの音楽用語として用いられている。奏法（スクイの手）、旋律型（コロリンという手）、リズム型（ツツケの手・手組）、器楽部分（手事）、器楽が活躍する楽曲（手のもの）、器楽の声部（本手・替手）など、例は枚挙に暇がない。オルガンの足鍵盤のように、足が音を出す手段として用いられる場合もあれば、口や鼻は、気鳴楽器、いわゆる管楽器の発音に多く用いられる。音を出すことと身体との関係をも、以上のように、さまざまな形態があるが、重要なことは、どの場合も、直接音に関わる身体の一部だけでなく、身体全体が音そのものに関わっているということである。音楽に必要な声を生み出すためには、下腹部の状態が重要であることは洋の東西を問わない。望ましい発声のためには、足の開き具合から頭を構える角度まで、訓練して身に付けることが必要であり、座り方一つで、楽器の音色も変化するのである。耳は音楽の受容、音を聞くことのために重要な身体の器官だが、音楽を体現する側にとっても、重要な役割を果たす。常に自分の出した音を聞きながら演奏を続けてゆくからである。

そして、最後に、こうした身体の動きを統括する精神活動としての音楽があることを忘れてはならない。





## 図書館活動

この週の目的は、各自が文献・資料を図書館の中で探索するのを促進することにある。入学時の図書館についてのオリエンテーションをよく思い出してほしい。そして、まず開架になっている部分を隅から隅まで一度は歩いてみて、棚の上から下まで目を通すことを勧める。数字による本の分類方法を知るだけでなく、哲学関係がどの辺に、美術関係がどの辺に、という具合に本学図書館の地理を覚えてしまおう。次に参考図書室の部分についても同じことを行い、百科事典、言葉の辞書、専門の辞書、年鑑、文献要旨の類がどの辺にあるかも覚えておこう。これは帯出が出来ないものであるが、自分が必要な時に誰かが図書館内で使用していることがあるので、一度は見ておいたほうがよい。

次にカードで素早く検索する方法を実習してみよう。ただし、日本でも欧米でも、カードのかわりにコンピューターだけで検索するところが増えている。本学でも、平成2年度からコンピューターを使ったLOOKS/Uというシステムが利用できるようになった。利用者用の端末機が2階の目録室（本の貸出と返却を頼むカウンターの前）にあるので、ぜひ慣れておこう。本学の本がすべてこのシステムで検索できるようになるには時間がかかるが、これからはこうした方式を使いこなせないと、よその大学や図書館に行っても仕事にならなくなる。

このシステムのためにも、また、わが大学にない文献を図書館を通じて他の機関から借りてもらうためにも、また、レポートや卒論を書くためにも、読みたい単庫本や雑誌論文の記録をしっかり作る習慣をつけておこう。たとえば、「シバタという人の音楽史の本」といった曖昧な記録ではなく、柴田南雄：「西洋音楽の歴史（上）」東京；音楽之友社、昭和42（1967）、というように、著者の姓と名、書名、出版地、出版年を忘れないように。日本の本の場合は、東京に限って出版地を省略することがあるが、最近では東京以外の本も多いので確認すること。この本をお茶の水女子大学から借りようと思ったら、自分のノートにも請求番号「762.3/sh18/1」と、この本の配備部局である「図書館」と「音楽」の文字を記しておこう。雑誌論文の場合は、著者名、題名の他、雑誌名、巻号、発行年の他、始めと終わりの頁を忘れないこと。外国語の本や論文でも同じ情報が必要である。

なお、音や映像による情報を使う場合は、附属図書館の閲覧カウンターに申し出て視聴覚コーナーを利用するとよい。

著者名

書名

巻号

発行年

部局

請求番号

お茶の水女子大学







平成13年度  
 目録  
 スーパー合録 目録合録  
 「学 0017」100  
 00:21 15\0 印刷出費\*  
 読者のためのサービス (A)  
 読 覧  
 (B) 読 覧  
 読 覧  
 学生氏名  
 学籍番号  
 学年 学部 学科 講座・専攻  
 お茶の水女子大学

総合コース小論文  
 平成13年度  
 コア科目  
 総合科目 総合コース  
 「文化の中の身体」  
 \*提出期限9/21 (金) 17:00  
 (A) テーマを通じての課題  
 課 題  
 (B) 個別課題 教官名 [ ]  
 課 題  
 学生氏名 学籍番号  
 学年 学部 学科 講座・専攻  
 お茶の水女子大学



総合コース小論文

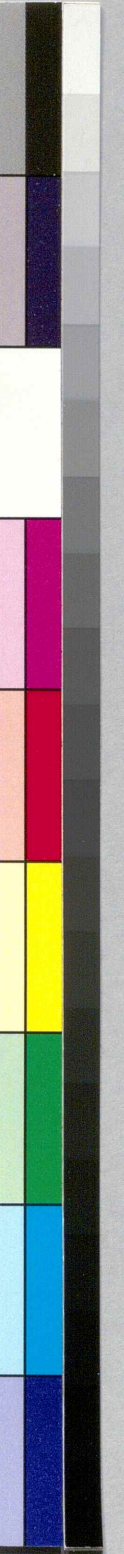
学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	





( ) 学籍番号

総合コース小論文

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

( ) 学籍番号

総合コース小論文

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	





( ) 学籍番号 文蔵小スーに合致

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

( ) 学籍番号 文蔵小スーに合致

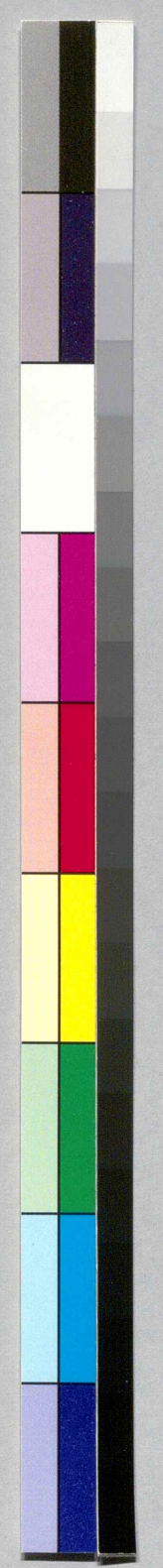
学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文 学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文 学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	



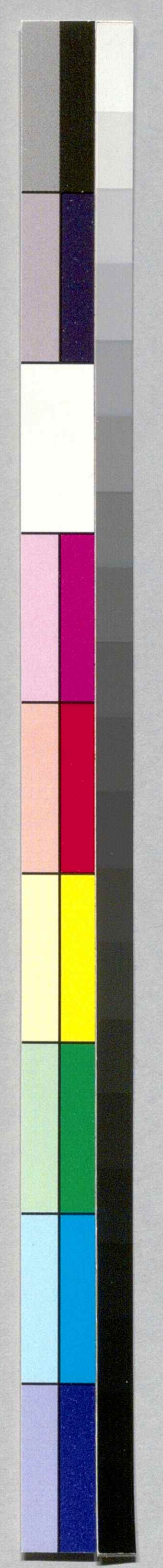


年月	学期	文専・専攻	科専	学年
月	日	日	日	日

年月	学期	文専・専攻	科専	学年
月	日	日	日	日

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	





( ) 学籍番号

文系小論文合録

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

( ) 学籍番号

文系小論文合録

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	





( ) 平素親学

文部小文一合録

学号	学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名		

( ) 平素親学

文部小文一合録

学号	学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名		

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	





( ) 学術論文

文庫小文一合録

学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文
学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文

( ) 学術論文

文庫小文一合録

学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文
学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文	学術論文

総合コース小論文

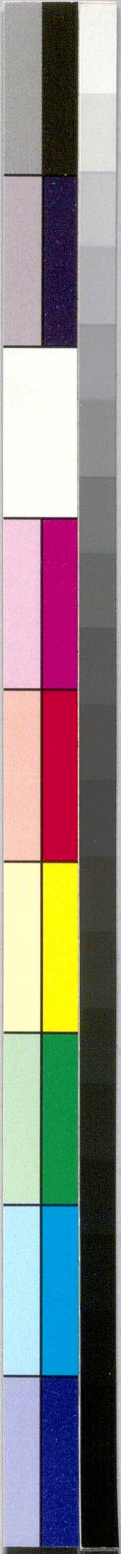
学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	





） 申請書

文部小スーロ合部

氏名	姓	名	姓	名	姓	名
申請書						

） 申請書

文部小スーロ合部

氏名	姓	名	姓	名	姓	名
申請書						

総合コース小論文

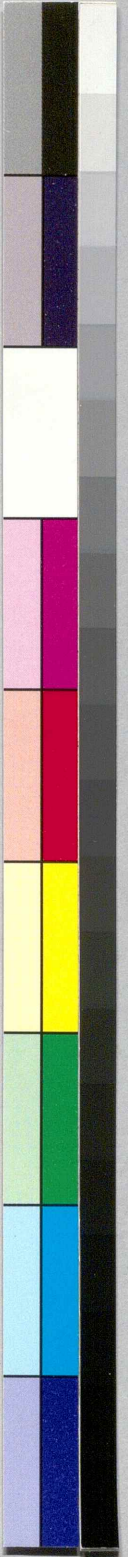
学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	





( ) 学籍番号

文部省小論文合録

氏名	姓	名	姓	名	姓	名
月	日	課題	月	日	月	日

( ) 学籍番号

文部省小論文合録

氏名	姓	名	姓	名	姓	名
月	日	課題	月	日	月	日

総合コース小論文

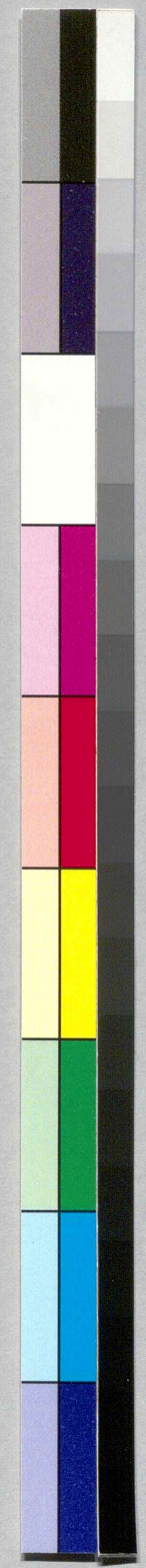
学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名	
月	日	課題		担当講師名	





( ) 申請書

文庫小論文合録

氏名	学年	専攻・専攻	科	学年
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名

( ) 申請書

文庫小論文合録

氏名	学年	専攻・専攻	科	学年
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名

総合コース小論文

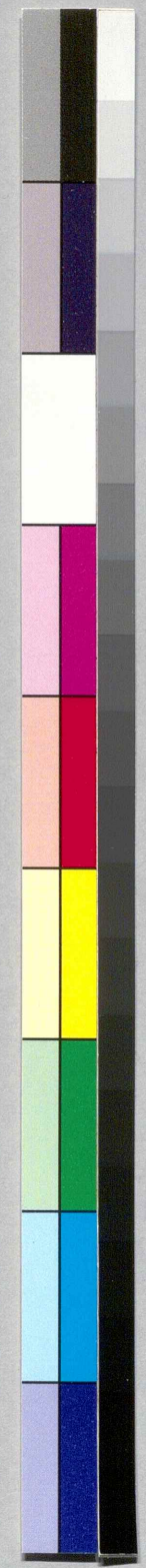
学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月 日	課題	担当講師名		

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月 日	課題	担当講師名		





手紙

文筆小レポート合録

氏名	学年	文筆・専攻	科目	期
氏名	学年	文筆・専攻	科目	期

手紙

文筆小レポート合録

氏名	学年	文筆・専攻	科目	期
氏名	学年	文筆・専攻	科目	期

総合コース小論文

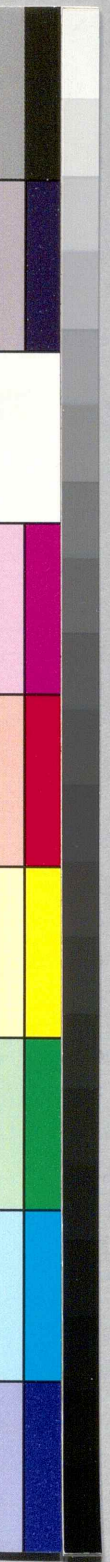
学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	





） 申請書

文部省小論文合録

氏名	科	専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

） 申請書

文部省小論文合録

氏名	科	専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	

総合コース小論文

学籍番号 ( )

学部	学科	講座・専攻	学年	氏名
月	日	課題	担当講師名	





著者	題名	種別	発行年	発行所
			日	月

著者	題名	種別	発行年	発行所
			日	月

